



あおり 町連だより

第226号

令和5年7月発行
青森市町会連合会
〒030-0801 青森市新町一丁目3-7
TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

人と人との絆を太く

令和5年度
定時総会

青森市町会連合会は5月30日、令和5年度定時総会をホテル青森で開催しました。対面での総会はコロナ禍で途絶えており元年度以来、4年ぶり。青森市(佐藤秀彦市民部長)、市議会(奈良岡隆議長)、青森警察署(浅岡宏昭地域官)、浪岡町内会連合会(伊藤芳男会長)から来賓を迎え、町会長ら約200人が出席し、5年度事業計画案・収支予算案など4議案を原案通り承認しました。

【2面に受賞者、部会活動】

4年ぶりの対面開催

佐々木重光会長は「コロナ禍で町会活動は大きな制約を受けてきた。会長就任から1年、町連がその役割を果たし続けるためにどうすればいいのかと考えてきた。組織全体の見直しを進め、簡素な組織で十分に機能し得る体制が望ましく、一方では人と人との絆を太くし、地域が結束して困難に立ち向かうことが必要だ」と組織改革への意欲を述べました。また「ようやく出口が見えてきた。コロナ禍で制約を受けてきた鬱屈(うっくつ)を晴らし、感染対策を怠ることなく、大いに活動しよう」と呼びかけました。



壇上であいさつする佐々木重光会長

地域の中心に

—— 基本方針 ——

青森市町会連合会の目的である「各町会の連絡協調と住民の福祉増進を図り、豊かで住みよいまちづくり」のため、活動を推進します。

少子高齢社会の進展と人口減少等により、地域力の強化が喫緊の課題となっている中で、町会が地域コミュニティの中心的な役割を引き続き担っていくために、町会連合会が今後もその役割を果たし続けられるよう、見直しを進めます。

抜本的見直し

—— 組織改革 ——

青森市町会連合会は、規約第2条「青森市の町会をもつ

て組織し、各町会の連絡協調と住民の福祉増進を図り、豊かで住みよい町づくりを目的とする」に基づいて、今まで運営されてきたところですが、組織体制が旧態依然となっているため、時代とともに変遷する町会の課題に対し、その解決に向けた弾力的な活動が展開できていない状況にあります。

こうしたことから、現行の組織体制を抜本的に見直し、町会の豊かで住みよい町づくりに寄与できるような組織への改編に向けて検討するものです。

- ・ 役員の員数の削減
- ・ 会長、副会長の選出方法の変更
- ・ 地域協議会の改編
- ・ 部会の改編

退任町会長、優良町会員を表彰

青森市町会連合会は5年度定時総会で表彰規程に基づき、退任した町会長31名と優良町会員132名を表彰しました。

(敬称略、カッコ内は町会名、勤続年数)

□20年以上勤続し退任

柏原昭三(佃气象台、38)田中義博(松森、20)故・松田功(桂、41)高橋正雄(南千刈、48)坂本昌俊(新城中町、20)佐藤武則(支村、26)故・伊丸岡英幸(新油町、27)工藤浩(浦町第一、27)

□5年以上20年未満勤続し退任

斉藤修一(平新田、5)伊藤良治(西富、10)棟方清和(久須志第一、18)故・村上均(浪館第二、5)小笠原務(西近野、12)織田奘一(南平岡、5)佐藤利市(浪館浅井、7)内海貞子(石江江渡中、6)山下勝(サンヒルズ、15)故・金鉄



町会長48年の高橋正雄さん(左)と
優良町会員 今和子さん

雄(協和、12)川村竹治(曙町、9)岩谷大(宝来町、11)田中儀助(信用町、6)故・小泉孝夫(幸畑、13)福岡喜代治(筒井南、7)古川健二(大野前田、12)故・鶴谷久勝(十三森、19)工藤雅明(大工町、13)故・新宅清司(橋本第一、17)中道昭二(旭町、8)昆正(長島南、10)故・川越晴美(桜町、16)故・塩原順(勝田第二、10)

□優良町会員

今和子(幸畑団地西)ほか131名

部会活動計画

新任町会長の研修会

◇総務部会

- ・定時総会、常任理事会、理事会等会議開催
- ・新任町会長研修会、理事研修会開催
- ・青函ツインシティ交流研修会開催
- ・市政懇談会開催

自主防災の勉強会

◇地域振興部会

- ・災害に備えて自主防災組織設立促進=結成率の低い地区において勉強会開催
- ・除排雪について=除排雪に関する意見交換会開催、道路の除排雪作業に協力してもらうチラシ作成・配布

自転車ヘルメット推進

◇交通・防犯部会

- ・地区連合町会による高齢者と子どもを守るための「総決起大会又はパレード等」の推進・協力
- ・冬期間の交通安全活動の推進
- ・交通安全施設の整備要望の促進
- ・交通安全協会・防犯協会等関係団体と連携した活動の推進

毎月1人40g削減

◇環境部会

- ・「ごみの更なる分別で可燃ごみひと月1人40g削減」の呼びかけ=チラシ作成・配布

ロコモ体操普及

◇福祉部会

- ・行政・関係団体との連携・

協力

- ・ロコモ体操の普及=ロコモ体操教室開催

町内女性の集い

◇女性部会

- ・女性部会勉強会開催
- ・女性(婦人)部役員研修会開催
- ・町内女性の集い開催

訃報

北部第1区 十三森町会
町会長 鶴谷 久勝 殿
令和5年2月20日ご逝去

南部第7区 幸畑町会
町会長 小泉 孝夫 殿
令和5年2月28日ご逝去

東部第6区 福田町会
町会長 佐々木徳弘 殿
令和5年5月25日ご逝去



清水町会

町会長 高森 泰彦

みんな顔なじみ

清水町会は北部第2区8町会の一つです。内真部(うちまんべ)と前田の町会に隣接します。

東は船小屋が並ぶ陸奥湾、西に目をやれば津軽半島の山並みを望み、水田が広がる平野部には北海道新幹線、国道280号バイパス、JR津軽線が通ります。

そして南北に抜ける旧松前街道に沿って集落が続き、141世帯が暮らす、みんな顔なじみの町会です。

朝夕に元気な声

清水の自慢は公共施設がたくさんあることです。学校は昭和60年、奥内と後潟の2校統合新築で北中学校が開校。令和2年には西田沢と奥内、後潟の3校統合で北小学校が誕生しました。朝夕に通学の子どもたちの元気な声が響きます。

さらにはJR津軽線の奥内駅があり、森林管理署の内真部森林事務所も。ナマコ種苗生産を担う市の水産振興センター、中央市民センター内真部分館と併設の奥内児童館。残念なことは清水の名前がついていないことでしょうか。



みんなで花壇づくり



不法投棄防止呼びかけ



側溝泥上げに精出す

里山に中世の城館

近年何かと話題になるのが近くの里山の各所に点在する十三湊・安藤氏の「内真部城館群」と呼ばれる中世の城館。探訪ツアーのようなイベントや見学会にはたくさんの人が訪れ、地元の私たちが驚いたほど。

また、青森市に唯一といわれる学問の神さま菅原道真公をまつる清水天満宮があり、庚申の塔、年に二度の権現さまや春秋彼岸の百万遍の年中行事も盛ん。

この3年間はコロナ禍のため地域の行事が満足に出来ていません。

環境美化運動に協力

ねぶたはことし8月に北中学校と合同運行を予定しており楽しみです。天満宮の境内、お盆前には墓地、海岸の清掃など環境美化運動も実施。町内には清水地域資源保全隊や清水農事振興会など組織化され、町会が協力して国道沿道の花壇づくりなど進めています。

少子高齢化で世帯数は年々減少し、女性部はついに解散しましたが一人暮らし高齢者の安否確認、子どもたちの見守り活動など関係団体と協力し、この先も住みよい清水町会を守っていききたい。

ホームページをご覧ください

青森市町会連合会のホームページは町会の広報紙も掲載しています。パソコンでもスマートフォンでもご利用いただけます。アドレスは次の通りです。
<https://aomori-choukairen.jp>

下記QRコードからもアクセスできます



いにしへの「町名」「通り」を知ろう

近現代編⑧

「八甲通」の成り立ちと建物疎開

工藤 大輔編集委員
(市民図書館歴史資料室長)

「八甲通」は戦後に命名？

改めていうまでもないのでしょうけれど、青森県庁の西側を南北に走る道は通称「八甲通」と呼ばれています。ちなみに、私の手元にある地図では、新町通と交わってから北側は「アスパム通」と記されています。

さて、この「八甲通」という名称については、戦前期には名称はなく、横山實市長の時代に実施された「戦災復興特別都市計画整理事業」でこの道の幅員が拡張された際に命名されたと書いてある本を目にしました。

この説は目下のところ通説とされているようですが、今回はこの説を再検討することにします。

復興都市計画52路線

昭和36年(1961)に刊行の『青森市史』第6巻政治編に、昭和29年12月に作成したと思われる「復興都市計画(街路ノ部)」52路線の一覧表が掲載されています。

この一覧表に起点を新安方町、終点を大野字長島とする「八甲通り線」が載っています。これをもって「八甲通」の誕生と理解するのであれば、



八甲通りと青森県庁(『復興した新しい青森』より)

一応通説の辻褃は合うように思います。

ただ、これだけではそれ以前に「八甲通の名称はなかった」と断定することはできないと考えます。もう少し探りを入れてみましょう。

戦時中の建物疎開

ここで少し回り道をします。戦争中の昭和18年10月、防空法が改正され、これにより「建物疎開」が実施されることになりました。

建物疎開とは防空対策のひとつで、重要施設・交通機関の防護あるいは延焼防止のため、家屋の密集地や重要工場付近の建物を取壊し空地を確保しようとするものでした。

市内では昭和20年5月1日～15日までに6路線で建物疎開を行うことになり、八甲通に相当する「県庁西横丁海岸より旧線路通りに至る線」もその対象となっていました。

県庁西横丁の建物疎開

当時の『東奥日報』の記事によれば、「県庁西横丁」の建物疎開は当初の予定よりも少し遅れ、6月27日に着手して30日までの4日間で工事を完了しました。このとき、青森市疎開跡地整理委員会事業部はこの工事のできた空地を「消防道路」にする計画をたて、周辺の16町会から2,000人近くの人員を動員しました。

「八甲通」ここに誕生！

こうして完成した新しい道路には名前がつけられました。そう、「八甲通」です。名付け親は当時の知事、金井元彦でした。しかも、6月30日午後4時から命名式まで行ったといえます。つまり、「八甲通」は戦争末期の建物疎開によってできた道路に付けられた名前であったのです。

ただ、それから1か月も経たないうちに、青森市は大規模な空襲に遭遇します。そして、敗戦と占領…混乱のなかにある市民一般が「八甲通」という名称を認知するようになるのは、社会が少し落ち着いてからであったのかもしれませんが。「八甲通」という名称が戦後の都市計画によって誕生したという説は、こうした文脈のなかで派生したものと理解すべきなのでしょう。

八甲通に水路をつくる

写真は昭和29年頃のもので、中央に写る青森県庁の左手に走る道路が八甲通です。ここで注目したいのは、道路の中央にある溝＝水路です。

この水路は沿道地区の「排水」を目的とするものですが、防災上の見地から従来の側溝の移設という建前で建設省の許可を受け、昭和23年度に着工しました。工事は資材調達の関係から下流側からではなく、国道・旧線路通間からの起工となりました。